

同窓会会報

第13号

平成23年12月1日

発行

鹿児島大学教育学部
同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7718

編集・印刷

（株）南日本新聞開発センター

規約改正で3専門部を設置

第14回総会が開かれる

平成23年度第14回同窓会総会は、8月6日午後1時から教育学部中会議室で、役員20名、学年代表33名が参加して開かれた。

新穂豊秋幹事の進行で、まず初めに亡師亡友並びに東日本大震災の犠牲者に対する哀悼の黙とうを捧げた後、池之迫幹事会長が、会のはじめに当たり、「今日、8月6日は、広島原爆の日。66年前、国土は焼け野が原となった当時が思い出される。以来わが国は、経済大国として大発展した。この大発展した国を襲った3月11日の未曾有の東日本大震災は、66年前のわが国の悲惨な状況と重なって思い出され

た。活動の活発化のために、今回、会則の一部を改正して、組織の中に専門部を置くことにしたので、協議の中でご検討願いたい。」とあいさつをした。

続いて、松元兼俊名誉会長、島田俊秀顧問のあいさつを受けた。武隈晃教育学部長は、教育学部の現状、特に学生の就職関係で、本年度は、就職希望者の50%近くが就職できるようになってきたことなどを話された。最後に永田憲太郎県議員のあいさつを受けた。

平成22年度の会務報告では、石神正明副会長が、同窓会活動2回目の懇親会、講演会などが行われたことを報告した。

協議では、榎添利光理事を議長に選出して進められた。議題は

①平成22年度決算報告案
②平成23年度の事業計画案
③平成23年度予算案
④規約改正案

の四つが協議された。予算では、一般会計・特別会計の決算案・予算案ともに、事業計画まで原案通り承認された。

規約改正では、池之迫会長が、14条に専門部（総務・広報・研修）を置くことの趣旨説明をして、その必要性を述べて承認を受けた。

次の役員選出では、同窓会設立当時から理事として、特別に同窓会名簿作成委員長として貢献された犬馬場茂理事、6年間監査に当たられた平岡順義監事、2年間幹事を務められた新穂豊秋幹事ら3人の辞任の申し出を会長が紹介して承認を受けた。新役員として、副会長、監事、幹事、理事の11名を専門部設置によって増員したことが説明されて選任が承認された。

その他の件については、会長・副会長が説明、報告した。

安全教育については大きな欠落があったと思われてならない。物質文明の極度の発達、人々の暮らしを平和で安全なものにするものではなく、かえって不幸に陥れるものではないかとも思われてならない。

このたびの大震災の被害はそのことを如実に表しているのではないだろうか。

ところで、教育学部同窓会は発足して14年、人間にたえれば心身の発達の活発な青年前期にあたる。同窓会の活動も新しく組織化、活性化を求め、総会において、会則の一部を改正して、第14条に「専

門部」を置き「総務部」「広報部」「研修部」の3部を設けて、活動を充実する態勢を整えることができた。同窓会活動は、当然のことではあるが同窓生の親睦をもとに、その絆を深めボランティアの活動に努め、幸せな社会にするために貢献できるものでありたい。

未曾有の東日本大震災は、地震、津波、原発による放射能の三重苦を与えて、これまでの私たちの生活の考え、生き方に大きな示唆を与え、物事の原点に立つことの大切さを教えているようである。



東日本大震災に思いをはせて

教育学部同窓会長 池之迫 静男

あったが、この日をスタートに戦後の復興が始まり、大繁栄の国土となった。

本年3月11日の東日本大震災は、私たちが受けた太平洋戦争の戦災による苦しみや悲しみ以上のものを与えてし

まっているのかもしれない。今年の総会は、亡師、亡友と大震災による犠牲者への哀悼の誠を捧げる黙とうから始まった。東日本大震災は、経済大国日本の私たちのこれまでの

生き方や考え方に大きな転機をもたらすものとなるであろう。特に、原発に関する問題は、戦後、民主主義、平和主義をモットーとして私たちの多くが学校教育の中で、推進してきたのであるが、平和と

は、10周年記念の時と、昨年の講演会を兼ねて2回実施した。同窓会活動は会員の親睦を図ることが目的であるが、全体の懇親会は、5年おきとか何かの記念のときなどに実施する。現在は、学年ごとの親睦を深めてもらうために、一昨年から学年ごとの同窓会を実施していただくために、その運営補助費も計上している」と概略説明をした。

これに対して、会員からは「毎年実施してほしい」という意見と「毎年全体会を実施することは、人集めに困難

をきたすので、まず学年ごとの同窓会を充実したほうがよい」という主な意見が出されたが、これについての結論は出さなかった。

最後に、新旧役員の見解を受け、松永都副会長の閉会のあいさつで、約2時間の総会が終わった。

平成22年度特別会計決算 (単位:円)

(記念事業積立金)

1.収入の部

区分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越	12,000,000	12,000,000	0
平成22年度積立金	500,000	500,000	0
合計	12,500,000	12,500,000	0

2.支出の部

区分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越	12,500,000	0	△12,500,000
合計	12,500,000	0	△12,500,000
次年度繰越額		12,500,000	

(大会開催準備基金)

1.収入の部

区分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越	2,640,396	2,640,396	0
合計	2,640,396	2,640,396	0

2.支出の部

区分	予算額	決算額	増減額
大会開催準備基金	2,640,396	1,587,250	△1,053,146
合計	2,640,396	1,587,250	△1,053,146
次年度繰越額		1,053,146	

(国際交流基金)

1.収入の部

区分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越	130,666	130,666	0
一般会計からの組み替え	369,334	369,334	0
合計	500,000	500,000	0

2.支出の部

区分	予算額	決算額	増減額
西ジョージア大学への派遣留学生経費補助 外	500,000	138,582	△361,418
合計	500,000	138,582	△361,418
次年度繰越額		361,418	

平成22年度一般会計決算 (単位:円)

1.収入の部

区分	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越	2,530	2,530	0	
会費	4,010,000	2,380,000	△1,630,000	新入生 2,190,000円 卒業生 円 既卒者 190,000円
雑収入	4,000	1,749	△2,251	預金利息
会計区分変更	0	1,500,000	1,500,000	特別会計(大会開催準備基金)から組み替え
合計	4,016,530	3,884,279	△132,251	

2.支出の部

区分	予算額	決算額	増減額	備考
事務経費	515,000	549,772	34,772	備品、賃金、通信費、不動産貸付料、文具等
会議費	580,000	458,110	△121,890	総会、理事会、役員会、講演会 同窓会連合会分担金
事業費	1,820,000	1,068,644	△751,356	会報作成費及び発送費 鹿児島県の教育を語る会経費 人材活用事業補助、 大学祭学部企画補助
会計区分変更	869,334	869,334	0	特別会計へ移し替え 記念事業積立金 (500,000円) 国際交流基金 (369,334円)
予備費	232,196	0	△232,196	
合計	4,016,530	2,945,860	△1,070,670	
次年度繰越額		938,419		

学校におけるこれからの

コンピュータ利用

教育学部教授 園屋 高志



一、コンピュータの進歩

米アップル社の創業者であるスティーブ・ジョブズ氏が、去る10月5日に死去したニュースは、日本でも大きく取り上げられた。ジョブズ氏の果たした業績は非常に大きいとされているが、中でも今

二、学校現場での新しい機器の活用

そのようなコンピュータがインターネットの普及とともにますます便利な道具となり、学校現場でも使われていることは読者の方々もご存じのとおりである。

鹿児島県内でも市町村による差はあるものの、特にここ1、2年でコンピュータをはじめ、大型テレビ、電子黒板、書画カメラ等の導入が進められている。例えば鹿児島市は全市立小・中・高等学校にこれらを導入し、活用の推進を図っている。特に書画カメラ

と大型テレビの組み合わせは便利である。これまでは教師が教科書の15ページの3行目を見て「らん」と言っている説明しても、子どもたち全員がそこを見ているとは限らなかった。しかし、そこで教師が教科書の15ページを開いて書画カメラで撮影し、それを大型テレビに大きく映し出して「教科書のここを見てらん」と指示すれば、子どもたち全員が目が画面に向かう。視点を一致させて説明する事が容易にできるわけである。

また、導入された機器のうち電子黒板は、これまでになかった新しい機器として、全国的にここ数年で導入されてきている。一見大型テレビのように見えるが、指やペンで画面にタッチして操作できたり、画面に書き込みめたりするのが特徴である。通常の黒板と併用しながら活用されていることが望まれる。

三、子どもの学ぶ道具としての活用
一方国の施策面では、文部科学省が「わかる授業のためのコンピュータや情報通信

ネットワークの活用」と、「情報教育の推進」および「校務の情報化」の三つを柱とする「教育の情報化」の施策を進めている。それを受けて、平成23年4月から小・中・高と順次実施されつつある新学習指導要領では、旧学習指導要領よりも、児童・生徒のコンピュータ・情報通信ネットワークの主体的あるいは実践的活用を促すような表現がなされている。

筆者はこの「児童・生徒の主体的な活用」を今後特に進めたいと考えている。先に述べたように、技術の進歩でコンピュータは使いやすくなり、人間と対話しやすくなっている。すなわち、画面を見ながらクリックすると即時に関連する情報が提示され、さらにそれに対してクリックしていく、というような「双方向性」に優れている。

またコンピュータ上では情報の加工や試行錯誤が容易であることや、文字だけではなく、音声や写真・動画などマルチメディアを提示できることなど優れた機能がある。これら

これらの機能を活かせば、子ども自身による情報の収集・記録・加工・表現・発信・共有が可能となり、子どもの学びの道具になる。従来のように教師の教える道具として使うだけではなく、さまざまな学習の場面でとかく子どもたちに使わせること、それがコンピュータを学ぶ道具として活かすことになろう。

四、大切にしたいアナログな感覚
かつて筆者はある小学校で理科の授業をさせていた。当時のコンピュータのいろいろ使い方を模索していた。小学校3年生理科「ものに光をあてよう」という単元で、板に付けた温度センサーをコンピュータにつないで温度測定を行うことにした。黒い板と白い板に同時に光を当てながら、コンピュータ画面にグラフで表示される温度変化の違いを見ていくと、黒い板の方が白い板よりも温度が速く高くなっていくことが一目瞭然である。

この時、温度変化の様子を見た直後に子どもたちが取った行動が、私には強く印象に残っている。彼らはそのころまだ珍しかったコンピュータを触るのではなく、私は何も言わないのに、皆が黒い板と白い板を手で触ったのである。自分の手の感触で温度の違いを確かめたわけである。これが大人だったらコンピュータの画面を見て、あるいは温度が上がるのか、と納得した行動が、私には強く印象に残っている。彼らはそのころまだ珍しかったコンピュータを触るのではなく、私は何も言わないのに、皆が黒い板と白い板を手で触ったのである。自分の手の感触で温度の違いを確かめたわけである。これが大人だったらコンピュータの画面を見て、あるいは温度が上がるのか、と納得した行動が、私には強く印象に残っている。

た行動が、私には強く印象に残っている。彼らはそのころまだ珍しかったコンピュータを触るのではなく、私は何も言わないのに、皆が黒い板と白い板を手で触ったのである。自分の手の感触で温度の違いを確かめたわけである。これが大人だったらコンピュータの画面を見て、あるいは温度が上がるのか、と納得した行動が、私には強く印象に残っている。

てそこでおしまい、ということになったであろう。しかし、子どもたちの好奇心はさすがである。やはり自分の手で触って、つまり五感を使って確かめないと納得しなかったわけである。いかに情報技術が発展しようと、人間がもともと持っているアナログな感覚をこれからも大切にしたいものである。

教育という不易

教育学部長 武隈 晃



鹿児島大学教育学部は、昭和24年の発足以降17、000人を超える有為の人材を輩出し、鹿児島をはじめ各地の教育界や各界に貢献してきました。また、平成6年に設置された大学院教育学研究科には教育学部卒業生の外に現職の教員や他大学・学部卒業生も進学しています。

こうした数多くの卒業生が、

了した「鹿児島教育を語る会」の開催や「国際交流基金」による海外派遣学生の支援をはじめ、同窓会の皆さまには本学部をさまざまな形で支えて

いたいております。鹿児島大学は他の国立大学同様、平成16年に法人化され、以降、大学・学部は組織・業務の見直しや評価・点検の制度化など様々な変化を余儀なくされています。そうした時代を乗り越えていくためには、時代を超え、世代を超え、流行を超えた人が集い価値を分かち合うことが、大きな意味があるだけでなく、将来を展望する原動力にもなりうると思われま

る。学生の行動様式や人との関わり方が、時代を超えて不変であるとするのは些か無理があります。だからこそそれを超えて通底する基本価値を共有することができれば、こ

んなに素晴らしいことはありません。私の出身高校同窓会の大先輩に元米国日産自動車社長でダットサンを北米で深く愛されたブランドに育て上げた片山豊(101歳)という人がいます。「誠、を米国社員に社是として掲げました。ビジネスで本当の価値をつくるのは、人なのです。この精神は米国でも世界でも通用します。」彼を慕い、日参する孫ほど年の離れた同窓の後輩に彼はこう語りました。

この三つの部に、新しく選任された理事が業務をそれぞれ分担して活動を推進することになった。専門部の業務内容については、以下のとおり。

専門部活動開始

同窓会活動の活性化と組織の機能化のために、創立後、14年目にして、ようやく会則を改正して、第14条に「専門部」を挿入

- ①専門部事項を処理するために専門部を置く。
- ②専門部に次の部を置き、理事をもって充てる。

総務部

- ①総会、親睦会等に関すること
- ②同窓会の組織に関すること
- ③各学部・鹿大同窓会連合会等に関する事
- ④同窓会名簿等に関する事
- ⑤その他

広報部

- ①広報活動に関する事
- ②会報の発行・配布に関する事
- ③ホームページに関する事
- ④その他

研修部

- ①会員の啓発に関する事
- ②講演会・研修会に関する事
- ③在学生の就職支援に関する事
- ④体育文化活動に対する支援に関する事
- ⑤在学生の表彰に関する事

◇平成23年度教育学部就職委員会活動◇

- 4月13日 東京都教員採用試験説明会
- 14日 川崎市教員採用試験説明会
- 18日 大阪府教員採用試験説明会
- 5月12日 横浜市教員採用試験説明会
- 18日 長崎県教員採用試験説明会
- 19日 講演「鹿児島県が求める教師像」
(鹿児島県教育委員会による)
- 25日 熊本県教員採用試験説明会
- 26日 鹿児島県教員採用試験説明会
- 4月～5月 教員採用試験大学推薦
(川崎市・東京都・横浜市・京都府に推薦)
(神奈川県・千葉県・埼玉県・京都市・千葉市・相模原市・推薦希望者なし)
- 6月16日 講演「面接試験等への対策」(教育学部教員による)
- 30日 講演「試験直前にすべきこと、できること」
(卒業生の教員による)
- 調査「進路確認シート」(3・4年生対象)
- 7月29日 教育学部説明会(高等学校等進路指導担当教諭対象)
- 29日 講演「面接等の対策について」(附属小教員による)
- 8月上旬 調査「教員採用試験一次試験アンケート」開始
- 9月29日 「就職活動に関する学生のメンタルケア」の講演会に教職員参加
- 9月下旬 調査「教員採用試験二次試験アンケート」開始
- 10月 調査「進路確認シート」(3・4年生対象)

この間、全学の就職支援センターによる就活スタートアップ、公務員試験対策、企業説明会、進路ガイダンスなどの情報提供や教育学部後援会による教探模擬試験受験費用の一部負担などの支援活動も行っています

(今後の予定)

- 11月～1月 教員採用試験対策プログラム(全12回、講義・講演・合格者体験談)
- 12月～1月 川崎市・大阪府・神奈川県等の教員採用試験説明会
- 1月下旬 合格者体験談を聴く会(教職・公務員・企業)
- 2月中旬 卒業生の教員による講演
教員採用試験の手引き 配布
- 調査「進路確認シート」(3・4年生対象)
- 3月上旬 教員事前研修(附属学校園における)

就職支援活動を通して思うこと

教育学部23年度 就職委員会

就職委員会委員長 今林 俊一



平成23年度の就職委員会は、3月の東日本大震災、長引く不況、格差の拡大、就職活動における学生のストレスなど、例年にもまして多くの課題に直面しての活動開始となりました。教員採用試験では各自が抱える課題をもとにした試験内容の見直しが進み、結果的に試験のスタイルの多様化をもたらしています。多くの卒業生が教員として活躍している鹿児島県でも試験内容の変更がなされました。そのような中で学生の就職活動を支援する本委員会として本年度に取り組んできたことやこれからの計画については別表のとおりです。なお、大学全体の取り組みや学部における本委員会とは別個の支援の取り組みについては、新名主・前委員長により昨年度の本会報で紹介されているので割愛致します。

さて、本年度4年生303名の就職決定状況(10月14日付)は、次の通りです。教員47名(62名)、公務員7名(31名)、企業15名(47名)などとなっております。決定率は23%程です。○内は昨年度の最終結果。現在未発表の教探結果や大学院進学(27名)などのデータは含まれてはいませんが、とても厳しい状況と言わざるを得ません。今後、期限付き教員採用希望者を募るなど、就職未決定の学生に対して就職決定までを支援していくこととなります。なお、昨年度は67名の学生が期限付きで採用されています。昨今の社会状況の不安定化や現時点での達成状況から、これまでの支援活動を通して把握した一課題と同窓会会員の皆様へ期待することについて私見を述べてみたい。

就職支援においては早朝にキャリアデザインを確立することの必要性を感じています。下学年(1・2年生)のうちから自己理解を含めたロードマップを明らかにすることが、大学4年間の勉学や生活の仕方に弾みをつけています。特に、多くの教育学部生の場合、これまで小・中・高・大学で過ごし学校という社会(環境)からほとんど離れることなく、就職に就くこととなります。このことは社会全体からすると、限られた視点から物事を捉えやすくすることにもなりかねません。「○○族」「○○村」などと評されるような社会全体から遊離した専門性だけでは、多様な個性や個性といった柔軟に状況に適応する能力を育むことは困難です。また、大学における授業は専門的とされていますが、科目履修に制限がある以上、学生が科目の関連性を考えた履修登録は結構難しい状態です。

実社会へのスムーズな移行に必要な考え方を育むには、さまざまな専門分野を持つ、時代に即した知識を学生に身近な事例を通して考えさせることです。一つの事例からさまざまな専門分野への広がりを見せることにより、その関連性に気付かせる支援が必要でしょう。例えば、「グローバルゼーション」「日本人」「地球」「ライフスタイル」「世の中の常識」「能力」「業界」などのテーマを通して、学生は社会の激しい変化の中にあつて時空を超えた視点で考えてみることで、世の中で働いていくために必要な知識を考へてみることで、社会との関係の中で自分ができることと期待されていることを有機的に関連させていくような体験ができそうです。同窓会会員の皆様には、教職をはじめ多くの分野における多様な経験やご経験や相互の関連性についての知見を、いづれかの機会に学生に対して披露していただることを密かに期待している次第です。

▼平成23年度教育学部同窓会予算(単位:円)▼

(収入の部)

区分	予算額	備考
前年度繰越	938,419	会費内訳
会費	4,150,000	23年度新入生 335名 (大学院生41名含む)
		22年度卒業生(納入見込) 50名 既卒者(見込) 30名 計 415名
		415名×10,000円=4,150,000円
雑収入	1,700	預金利息
合計	5,090,119	

(支出の部)

区分	予算額	備考
事務経費	550,000	通信費40千円、賃金等300千円、文具等50千円、消耗品等125千円 不動産貸付料35千円
会議費	400,000	理事会、総会経費等200千円、同窓会連合会関係費等200千円
事業費	1,740,000	会報作成費500千円(送料含む)、鹿児島県の教育を語る会130千円 人材活用事業費300千円 支部、学年・教科同総会補助300千円 大学祭共催企画100千円、各種交通費等60千円、その他50千円 専門部活動費300千円
会計区分変更	138,582	特別会計(国際交流基金)へ組み替え※昨年度支出額充当
予備費	2,261,537	
合計	5,090,119	

2. 特別会計

(1) 記念事業積立金

(収入の部)

区分	予算額	備考
前年度繰越	12,500,000	
合計	12,500,000	

(支出の部)

区分	予算額	備考
記念事業積立金	12,500,000	
計	12,500,000	

(2) 大会開催準備基金

(収入の部)

区分	予算額	備考
前年度繰越	1,053,146	
合計	1,053,146	

(支出の部)

区分	予算額	備考
大会開催準備基金	1,053,146	
計	1,053,146	

(3) 国際交流基金

(収入の部)

区分	予算額	備考
前年度繰越	361,418	H22支出済額を一般会計から組み替え充当
新規積立	138,582	
合計	500,000	

(支出の部)

区分	予算額	備考
国際交流基金	500,000	
計	500,000	

平成23年度 事業計画

- 4月5日 新入生教育学部企画オリエンテーション
- 4月9日 鹿児島大学同窓会連合会総会・懇親会
- 4月17日 教育学部卒業生上之段祐佳外ピアノリサイタル後援
- 6月5日 教育学部長杯県下小中学校教職員バレーボール大会
- 6月15日 同窓会連合会第1回幹事会
- 7月15日 同窓会連合会臨時役員会
- 7月22日 第1回同窓会役員会
- 8月6日 同窓会理事会
- 8月11日 同窓会総会
- 9月 第1回専門部会
- 9月 第2回同窓会役員会
- 10月 第2回支部分話役会(平成21年度に第1回開催)
- 11月13日 大学祭学部企画事業への参画
- 11月30日 同窓会主催「第10回鹿児島県の教育を語る会」
- 12月1日 同窓会会報第13号発行
- 12月 同窓会会報第13号を、各同窓会員に発送
- 2月 昭和49年卒業生への案内
- 3月 平成24年度新入学生への案内

同窓会回顧二つの同窓会

昭和29年卒 平岡 順義



鹿児島大学教育学部には二つの同窓会がある。

一つは、「鹿児島師範・鹿児島大学教育学部同窓会」である。

前者は、昭和63年に、これまで存続していた男子師範同窓会を母体として、それに教育学部卒業生・修了生が加入して設立されて、今年で24年目を迎えている。

教育学部卒業生・修了生の加入に当たっては、教育学部の前身は男子師範・女子師範・

私が教育学部に入学した理由は、「学校の先生になりたい」という、小学生の時から夢をかなえるためです。小学校のころは、教員になりたという漠然とした夢でしたが、中学・高校に上がるにつれて夢が確かなものに変わっていききました。自分が一生を通して関わっていききたいと思う科目は体育だったので、保健体育系専修に進むことを決意しました。大学に入るために努力し、入学式の時は、やっと自分の夢を叶えるための第一歩を踏み出すことができたと感じました。

教育学部に入学して

保健体育専修 1年 椎畑 咲美



た以上に大変でした。運動をすることは好きだけでも、自分が専門としていた競技の他にもさまざまな競技や苦手をすることも修得しなければならぬので、苦勞しそうです。将来自分が先生となって教える際に「できない」では、手本となることも、学ぶ楽しさを教えることもできないので是非でも修得していきたいと思

部だけが同窓会が無かったので、教育学部側からの強い要請があったようである。この二つの同窓会は、組織・活動内容等で異なっている。「師範・教育学部同窓会」は、会員の親睦を図ることを主な目的として、年1回の総会と懇親会・慰霊祭を行っている。参加者はほとんど定年退職者であり、その企画・運営は当番学年が当たり、同期の結束に役立っている。

ある上に、生存の確認、姓の変更の確認、更に勤務先の変更・住所の変更の確認等を電話等で知人を介して問い合わせ、手探りの大変な作業の連続だった。こうして1年がかりで平成12年1月に完成し会員に発送した。

以来、年1回の会報の発行、鹿児島島の教育を語る会、人材活用事業、国際交流基金の設置・支部・学年・教科の同窓会補助事業等、着実に成果を上げていく。

一方、後者の「教育学部同窓会」は、平成9年教育学部の創立50周年を迎えるに当たり、同窓会を設立しようという機運が盛り上がり、平成10年に設立されて14年を迎えている。

その背景には、鹿大の他の学部には早くから同窓会が組織され活動しており、教育学部

これは、会員の親睦と母校の発展と教育の振興を図ることを目的として、さまざまな活動・事業を行っている。

最初の事業は、教育学部創立50周年記念行事の一環としての同窓会名簿の作成であった。名簿作成委員会が組織され、各卒業年度毎の分担をして名簿資料の収集を行った。なにしろ膨大な数の卒業生で

は、自分の中で教員としての一番の課題だと思えます。私はまだ大学1年で分らないこと、できないこと、不安に思うことも多いです。でも、だからこそ見えるものもあれば、得られるものも多いためです。今は1年生らしく自分にできることは精いっぱい頑張っていきたいと思えます。

鹿師・教育学部同窓会解散
詳細は24年度総会で

鹿師・教育学部同窓会と鹿児島大学教育学部同窓会の会長・副会長・顧問が、10月11日午後3時から、教育学部において、文書による鹿児島師範・教育学部同窓会からの二つのお願い(慰霊祭と懇親会を引き継ぐこと)についての話し合い。

両同窓会の活動の現状等を話し合い、「二つのお願い」に

同窓会役員

顧問	島田俊秀	新名主健一
名譽会長	坂尾尚隆	松清秀一
会長	中山右尚	植村哲郎
副会長	河原尚武	藤島仁兵
理事	武隈晃	南貞巳
	池之迫静男	西種子田弘芳
	石神正明	末吉泰宏
	文城テツ子	福満博隆
	松永郁男	下原美保
	有馬暢洋	寺床勝也
	上村睦郎	假屋園明彦
	榎添利光	○西 ゆう子
	福島嘉久	○前田 美保子
	佐藤敦子	○水之浦 修
	橋野奈々代	○有村 孝
	南孝一	○永田 憲太郎
	今林俊一	○川内野 一弥
		○東 寛治
幹事	○北原 賢一郎	
監事	○竹之内 則好	
書記	○江口 英雄	
支世話役	○野間 ひろみ	
	川崎 芳夫	
	樋園 正郎	
	辰野 吉郎	
	松山 司郎	
	向原 翼	
	竹宮 鐵一郎	
	松崎 弘一	
	笛田 茂	
	塚本 孝行	
	川井田 稔	
	羽生 昌弘	
	竹下 徹	
	○印は新役員	

（榎添）